

(兼題)

「畑」 岡 あきら 選

佳句

仇討ちの如く雑草背まで伸び

瑞人

畑違いの間にとまどうあれやこれ

博子

この地主几帳面だと判る畝

瑞人

お隣のリズムミカルなる鋏の音

らんまん

ピカピカの茄子の笑顔は爺の畑

玲峰

人

校庭を芋の畑にした戦

竹治ちかし

地

過疎に泣く先祖の汗を吸った畑

竹治ちかし

天

夕立にいい潤いと畑はしゃぐ

伊藤 玲峰

軸吟

蒔かなけりや生えぬ畑と馬が合う

岡 あきら

(兼題)

「泡」 今岡 健柳 選

佳句

泡沫の浮いては消えていく運命

歌子

楽しかったとシヤボン玉にし飛ばす恋

玲峰

熱かった昭和の恋はシヤボン玉

たえこ

水泡に帰して大事なこと気付く

ちかし

泡とぼし想い出語る一代記

弘子

人

他人の恩感じず水の泡とする

竹治ちかし

地

哀しみを泡弾かせて友と飲む

西坂 瑞人

天

泡はじけ胸のマグマがゆるぎ出す

吉川らんまん

軸吟

泡の出るビール人生盛りあげる

今岡 健柳

(兼題)

「センス」 伊藤 玲峰 選

佳句

センスから時の流れがよく読める

歌子

天然なのかボケのセンスも一流だ

博子

衣替えセンスが右往左往する

あきら

外交センス光るデビューの両陛下(祝令和)

あきら

昭和の古着孫のセンスでニューモード

寿美

人

風の色読んでセンスのいい言葉

妹尾 喜子

地

おふくろの味はセンスの上をいく

竹治ちかし

天

さすが女子 部屋に緑を置くセンス

西坂 瑞人

軸吟

ダンディーな妻のセンスの勝負服

伊藤 玲峰

(席題)

「上手」 竹治ちかし 選

人

親に似ず器用な手先ありがたや

吉川らんまん

地

聞けばすぐお上手返す怖い人

錦織ゆきこ

天

ありがとうすみませんねと生き上手

伊藤 玲峰

軸吟

他人が皆 上手に見える習い事

竹治ちかし